



BLUE POWER MADE IN AKITA

【インタビュー】秋田の「水」と生きる。天寿酒造 一関 陽介氏

秋田を支える「水のチカラ」

水ノある風景

水のチカラ～あきたeでんき～

「あきたEネ！ オプション水力100%」導入企業紹介

水のチカラ COLUMN

01

2023-2024

【水のチカラ BOOK】

水

ノ

チカラ



にかほ市象潟町上郷地域。複数の温水路が大地を潤す。

緑豊かな秋田には、水が豊富にあります。
農業や林業にとっては、水は大切な源。
漁業にとっても、雪解け水は大切な養分を運び、魚が育つ海になります。
豊富にとれた米を使い、発酵食文化が発展しました。
お米が豊富にとれるから、日本酒もきりたんぼもある。
水が秋田杉を育んだおかげで、曲げわっぱが生まれました。
水は大地を潤し、人を潤し、
実りを生み出し、そしてエネルギーを生み出します。
大切な秋田を、子や孫の未来に残すために。
さまざまな形で秋田を支えてきた水のチカラを、
今一度、見つめ直してみませんか？

秋田の



INTERVIEW

長い歴史を持つ酒蔵で
10年以上杜氏を務めている一関さんに、
酒蔵にとっての「水」についてお話を伺ってきました。

水をどう活かすか
考えるのが、
僕の仕事



天寿酒造株式会社
杜氏 一関陽介さん

「水」と生きる。

水は、蔵にとって「変わらない」アイデンティティーなんです

秋

田原由利本荘市矢島。鳥海山の麓で百九十四年にわたり酒造りを行う天寿酒造の杜氏である一関さんは、かつて県内最年少でこの重役を担い、現在41歳で杜氏歴12年目を迎える。「小さいころから日本古来の文化や伝統工芸、モノづくりなどに興味がありました。大学で醸造学科に進学したのも、日本酒や発酵食品などの食文化を学んで、将来的に秋田に帰りその分野で働きたいという思いがありました。大学で所属していた研究室の先生が弊社の社長と知り合いで、秋田出身者を探しているという相談があり、そこで私に白羽の矢が立って天寿へ入社することになりました。」

天寿酒造がある矢島は、鳥海山の登山口でもあり、県内でも有数の豪雪地帯。秋田流低温長期発酵という秋田古来の酒造りの手法にはびつたり環境であり、80年ほどかけて積み出る鳥海山の伏流水を仕込み水としている。「私が杜氏になって、社長から依頼されたのは「変わらない」ということでした。その時は今まで通りやれば良いんだ、と解釈したんですが、今思えばとても難しいことでした。先輩たちが残してくれた仕込みの配合は変えていきませんが、そもそもこの仕込み水を変えることはできない。でも、実は毎日同じことをしていても同じ酒にはならないんです。同じ水、同じ米を使っても、さまざまな要因によって麹の強さや酵母の育ち方は少しずつ異なる。社長はとても難しいことを命じていたんだと、今になって思います。」

天寿酒造の「鳥海山」は、この地でできる最高の酒を目指して現在の代表である七代目大井永吉氏によって開発された、当蔵の代表銘柄である。「鳥海山は当蔵の仕込み水と同じお水で育ったこの地のお米だけを使います。そのため欠かせないのが天寿酒米研究会の存在です。米づくりの期間中に数回、会員の農家さんに集まっていたり、生育状況などを確認します。同じ田んぼでも場所によって育ち方は違ってしまう。そこで、水の当たるところと陽の当たるところの稲株を持ってきてもらい確認します。酒米は飯米と違い、酒造りに適したお米を目指す必要があります。タンパク質や米の硬さなどが理想に近づくように農家の方と細かく調整していきます。蔵のオーダーに対応して米づくりをしてもらっているのも、もちろん酒米研究会のお米は全量買取です。ゆくゆくは、自社で米づくりを行えたらという思いもありますが、焦らず、少しずつ実現していきたいですね。」

天寿の仕込み水は鳥海山の自然がもたらす超軟水。硬度が低くまろやかで、やわらかい。お酒にしたときに「辛口」になりにくい特徴があるという。一関さんにとって、この「水」とはどんな存在なのだろうか？

「私たち酒蔵がここにある意味は「水」なんだと思います。この地にこの水があるから、ここにある。水は、蔵にとって「変わらない」アイデンティティーなんです。この水をどう活かすかを考え、醸すのが私の仕事だと思っています。」

天寿の仕込み水と向き合い、酒造りに真摯に励んできた一関さん。これからも、この地でできる最高の酒を追い求め、醸し続ける。



大井社長（写真左）と酒の出来を確認する一関さん



天寿酒米研究会メンバーの田んぼ。穂が付き始めたころの様子

天寿酒造

文政13年(1830年)、初代大井永吉が麗峰鳥海山の麓である由利本荘市矢島町に創業。現在の当主である七代目は「地元で出来る最高の酒」を目指した酒造りを行っている。国内だけでなく、海外のコンテストでも数々の賞を受賞、その品質の高さが証明されている。



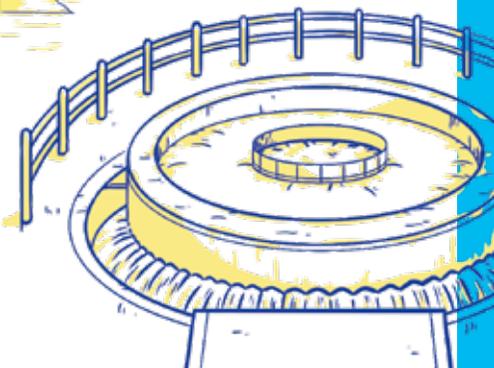
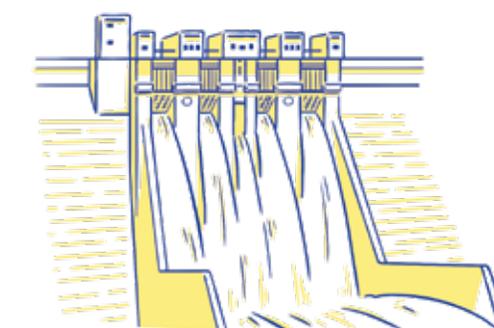
天寿酒造株式会社
〒015-0411
秋田県由利本荘市矢島町城内字八森下117
☎0184-55-3165 <https://tenju.co.jp/>

一関 陽介 ○いちのせき・ようすけ
1982年秋田県秋田市出身。幼少期に和太鼓をやっていた経験から日本古来の文化やモノづくりに興味を持つ。東京農業大学短期大学部醸造学科に入学し、醸造学を学ぶ。担当教授の紹介を経て、平成16年に天寿酒造株式会社へ入社。蔵人として経験を積み、前任の杜氏が引退するタイミングで弱冠30歳の若さで杜氏に就任した。令和4酒造年度全国新酒鑑評会では金賞を受賞。

歴史から
紐解く！

秋田を支える 水のチカラ

秋田県内にある「水」にまつわるインフラは、
ダムはもちろん、農業にかかわるものなどさまざま。
秋田を支えてきた水のチカラを紐解いていこう。

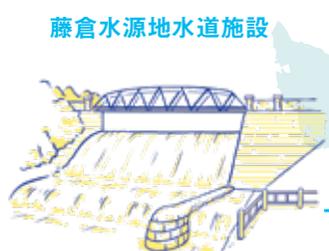


[秋田・水のチカラ史]

- 江戸前期 岩堰用水が開削開始
- 湯沢大堰が開削開始
- 戸村堰が完成
- 山城堰が開削開始
- 江戸後期 田沢疏水が開削開始
- 明治4年 廃藩置県により、秋田県が誕生
- 明治11年 日本で初めて電灯が灯る
- 明治30年 小坂鉱山で使用するため、大湯川銚子滝に発電所を開設
- 明治44年 藤倉水源地水道施設が完成
- 大正9年 秋田鉄道馬車株式会社（秋田電気軌道）誕生
- 昭和13年 関田円型分水工が完成
- 昭和15年 郷内発電所が完成
- 昭和28年 森吉ダムが完成
- 昭和30年代 滝の頭円形分水工が完成
- 昭和32年 釜畑ダムが完成
- 昭和35年 上郷の温水路群が完成
- 昭和38年 皆瀬ダムが完成
- 昭和53年 山城堰頭首工が完成
- 平成2年 玉川ダムが完成
- 平成3年 玉川酸性水中和処理施設が本運転開始
- 平成11年 大松川ダムが完成
- 平成24年 森吉山ダムが完成
- 令和4年 能代港洋上風力が国内初の商業運転を開始
- 令和5年 秋田港洋上風力が商業運転を開始



藤里町にある素波里ダム。白神山地の一角を占める藤里駒ヶ岳の山懐にダム湖である素波里湖が広がる。昭和45年（1970年）に完成。粕毛川、藤琴川の洪水被害防止と能代山本地域の灌漑用水確保、素波里発電所での発電を目的としている。



藤倉水源地水道施設

明治維新のころ、秋田市に水道用水・防火用水を供給するために建てられた水道施設であり、明治44年（1911年）に完成。1993年に国の重要文化財に指定されている。重量式コンクリート造り、石張りのダムで上部から水を流す越流式。



上郷の温水路群

にかほ市象潟町上郷にある温水路群。全部で5本の温水路があり、全長は6.28km。平成15年（2003年）には、融雪水による冷水温障害克服を目的として考案された日本初の温水路群として「日本土木学会選奨土木遺産」に認定された。

水沢ダム

素波里ダム

岩堰用水

山瀬ダム

早口ダム

砂子沢ダム

森吉山ダム

森吉ダム

玉川ダム

仙北市田沢湖の上流にあり、奥羽山脈の雪解け水や雨水を貯水。昭和50年（1975年）工事開始、平成2年（1990年）完成。洪水調節などの治水目的、農業用水、秋田湾の工業用水の供給、秋田市の上下水道の供給と発電の役割を担っている。

萩形ダム

旭川ダム

釜畑ダム

岩見ダム

協和ダム

抱返頭首工・田沢疏水幹線用水路

文政8年（1825年）に10代秋田藩主・佐竹義厚が玉川をせき止め、10年かかって約30kmの素振り水路を開削したことにより始まった施設。その後、田沢疏水は大規模国営開墾事業として昭和12年（1937年）から26年の歳月を経た工事を行った。現在も潤沢な用水を供給している。

大内ダム

山城堰・山城堰頭首工

大松川ダム

関田円型分水工

美郷町六郷にある施設。丸子川が形成した六郷扇状地の扇頂部にある円型分水。昭和初期、水源供給能力強化のため、仏沢ダムを建設するとともに設置され、旧六郷町を中心に7町村へ、今なお水を平等に供給している。

郷内発電所

湯沢大堰

皆瀬ダム

板戸ダム

役割のほか、豊富な水をコントロールし農業用水として活用する灌漑の目的、飲料としての水を確保し地域へ配分するための役割、そして発電のための役割もある。秋田県で初めて発電が行われたのは明治30年（1897年）。小坂鉱山で電気を使う目的で鹿角市の大湯川銚子の滝に発電所が開設された。

水に関係する設備で現存する最も古いものは、能代市二ツ井にある「岩堰用水」だ。江戸時代前期に農業用水路として15年の歳月をかけて作られたもので、今なお活用されているというから驚きだ。実は県内各地のあちこちに江戸や明治、昭和初期に作られた設備があり、その多くは人々の生活を安全に、豊かにするためのものだ。

すべての生物に欠かすことのできない水。水は人を潤すことも、危険に晒すこともある。水とともに生き、その恩恵を得るために、先人たちは叡智を紡いできた。その歴史は未来に秋田を残すヒントを教えてください。

今年7月半ば、地球温暖化による影響を身近に感じる事態が秋田県内各地を襲った。わずか1日で例年の1か月間雨量を記録する豪雨災害が発生、過去に例を見ない被害をもたらした。甚大な被害によって、未だ復旧作業が滞っているエリアもある。この期間、県内各地のダムの名前をニュースで聞く機会があったのではないだろうか。ダムは、川へ流入する水量をコントロールし、増水の危険性を減らす「治水」の役割を持つことで洪水による被害を減らしている。今回の大雨ではダムの貯水量が増大したことで、緊急放水の対応を迫られたが、ダムがその役割を果たさなければより大きな被害をもたらすことになったことであろう。

秋田県内にはいわゆるダム湖のような大規模なものだけでなく、堰だけのものも含めて60基以上のダムがある。ひとことで「ダム」と言っても、実はさまざまな役割を持っている。前述した「治水」の

今

水 ノ ある 風景

鳥海山の伏流水を
最大限活かす、
人々の努力と知恵。
にかほ市象潟／上郷の温水路群



秋田県と山形県との境にそびえ立つ、鳥海山。雄大な裾野が広がるにかほ市象潟の上郷地区には、幅が約5.4〜20mの水路が複数あり、その全長は6.28kmにも及ぶ。「上郷の温水路群」と呼ばれる農業用水路だ。農林水産省による「疏水百選」にも選定されている。標高が高く、傾斜があるため、周囲には棚田が広がり、美しい景色を作り出している。

この上郷温水路は昭和2年に工事が始まった。鳥海山の雪解け水は水温が低く、周辺では稲の冷水害に悩んでいた。当時、長岡集落の理事であった佐々木順治郎氏が陣頭指揮を取り、温水路の建設に着手。水路の幅を広く、水深を浅くし、緩やかな流れに。そして多くの落差工を設けて水を揉む（攪拌する）ことにより、水温が上昇する仕組みを作り出した。工事は昭和35年まで行われ、この温水路により稲の収量は2倍になった。そこには、豊かな水を最大限活かす人々の知恵と努力があった。



水ノチカラ

あきたeでんき

秋田で古くから利用されてきた水力発電は、CO₂を排出しない再生可能エネルギー。「水のチカラ～あきたeでんき～」は、秋田県営水力発電所由来100%のプランです。

【水のチカラ～あきたeでんきの特徴】

1. 再エネ100%だから燃料費調整なし

2. 基本料金は東北電力の従量電灯Bの半額

3. 電力量料金単価は使用量によらず一定

$$\text{料金} = \text{基本料金} + \text{電力量料金} + \text{再エネ賦課金}$$

※料金の詳細は、東北電力フロンティアのWebサイトをご確認ください。

【プランについて】

対象者／秋田県内の一般家庭等のお客さま（低圧）

加入条件／・秋田県内において、60アンペア以下で電気を使用されること
・料金のお支払い方法をクレジットカード払いとさせていただくこと
※加入条件を満たす場合、企業等の法人のお客さまもご加入いただけます。

適用期間／2026年3月分まで

電源構成／秋田県営水力発電所由来の電気100%

Aターム応援割

加入条件／・「水のチカラ～あきたeでんき～」にご加入いただくこと
・過去2年以内に秋田県外から県内にお引越された方がいる世帯

割引内容／「水のチカラ～あきたeでんき～」の基本料金を6か月無料

募集口数／先着1,000世帯まで

適用期間／適用開始から6か月間

※お客さまのご契約開始・廃止の時期によっては、満6か月とならない場合がございます。

【お申込み方法】

申込期間／2025年9月30日まで

申込方法／東北電力フロンティアのWebサイトからお申込みください。

料金プランの詳細やお申込み方法は、

東北電力フロンティアのWebサイトをご確認ください。

https://www.tohoku-frontier.co.jp/plan/akita_e_denki/concept/





県内で人気のアクティビティをご紹介します！

美郷町の自然で“トトノウ”、テントサウナ ヤマノサウナ



ヤマノサウナ
仙北郡美郷町六郷東根下馬転 120 (六郷温泉あったか山敷敷地内)
☎ 0187-84-2641 <https://sauna.akita-misato.com/>
公式LINE <https://line.me/R/ti/p/@792uqddv>
(LINE から予約可能です)
※六郷温泉あったか山は 2023 年 9 月まで休業となりますが、ヤマノサウナは利用可能です。詳細は Web サイトでご確認ください。

近年、全国的にブームとなっている「サ活」。県内のサウナ施設も大勢の利用客で賑わっている。今回ご紹介するのは、美郷町にある六郷あったか山で利用できるテントサウナのサービス「ヤマノサウナ」。敷地内の東屋のなかに設置されており、雪のシーズンでも利用できちゃうのだ。

じんわり汗をかいて、夏はプールに、冬は雪のなかにダイブ。ロウリュはセルフで、美郷の「ラベンダー」の香りのアロマ水を選べば、リラックス効果は絶大だ。自律神経を整える効果があるとされるサウナだが、水風呂のあとの外気浴がとにかく気持ちいい。ヤマノサウナなら大自然の中でトトノウ体験ができる。ちなみに、六郷温泉あったか山にはコテージ施設もあり、泊りがけのサウナも楽しめるのはうれしい。ぜひ家族や仲間と、秋田の自然の中でのサウナ体感をしてみよう。



【ダムマニア・カブ鈴木プレゼンツ】米と田んぼと、ダムと僕。

カブ鈴木／農家であり、日本酒の蔵人であり、山菜と温泉をこよなく愛する、四十代男子。

ダムマニアの目線から見た、日本の水と農業の未来。ダムは本場に大造りもしている。ダムは本場に大造りもしている。ダムは本場に大造りもしている。

膨大な時間をかけて人が自然と共存するために作られているんだ。オラだば農家だし、酒蔵で酒造りもしている。ダムは本場に大造りもしている。

膨大な時間をかけて人が自然と共存するために作られているんだ。オラだば農家だし、酒蔵で酒造りもしている。ダムは本場に大造りもしている。

膨大な時間をかけて人が自然と共存するために作られているんだ。オラだば農家だし、酒蔵で酒造りもしている。ダムは本場に大造りもしている。

ダムの見方がわからない。そんなあなたに贈る、ダム好きによる、ダム仲間を増やすためのダムコラム。さあ、あなたも今日からダムマニア！

学時代、埼玉のセメント会社でコンクリートの強度試験をするアルバイトをしたことあって。建設中のダムの碎石とセメントをどの割合で混ぜると一番強度が出るか調べる仕事だよ。自分が関わったダム、なんたもんだが見てみでな

だっけ、でっけえダムサイトで大迫力だった。それを見たのがきっかけで、ダムに興味持つようになった。実はダムって、ひとつとして同じものは無い。その場に一番いい形を設計して、膨大な時間をかけて人が自然と共存するために作られているんだ。オラだば農家だし、酒蔵で酒造りもしている。ダムは本場に大造りもしている。

だっけ、でっけえダムサイトで大迫力だった。それを見たのがきっかけで、ダムに興味持つようになった。実はダムって、ひとつとして同じものは無い。その場に一番いい形を設計して、膨大な時間をかけて人が自然と共存するために作られているんだ。オラだば農家だし、酒蔵で酒造りもしている。ダムは本場に大造りもしている。

だっけ、でっけえダムサイトで大迫力だった。それを見たのがきっかけで、ダムに興味持つようになった。実はダムって、ひとつとして同じものは無い。その場に一番いい形を設計して、膨大な時間をかけて人が自然と共存するために作られているんだ。オラだば農家だし、酒蔵で酒造りもしている。ダムは本場に大造りもしている。

だっけ、でっけえダムサイトで大迫力だった。それを見たのがきっかけで、ダムに興味持つようになった。実はダムって、ひとつとして同じものは無い。その場に一番いい形を設計して、膨大な時間をかけて人が自然と共存するために作られているんだ。オラだば農家だし、酒蔵で酒造りもしている。ダムは本場に大造りもしている。

だっけ、でっけえダムサイトで大迫力だった。それを見たのがきっかけで、ダムに興味持つようになった。実はダムって、ひとつとして同じものは無い。その場に一番いい形を設計して、膨大な時間をかけて人が自然と共存するために作られているんだ。オラだば農家だし、酒蔵で酒造りもしている。ダムは本場に大造りもしている。

株式会社アルビオン白神研究所

【秋田県と東北電力が提供する特別高圧・高圧向け再エネプラン】導入企業紹介

あきた E ね！ オプション水力 100%

世界規模で認知されているハイブランド化粧品メーカーであるアルビオン。その研究所が秋田県藤里町にある。白神研究所の設立の経緯や事業内容、秋田県営水力発電所由来の電力利用について小平努所長にお話を伺った。



白神研究所に設立当初から携わってきた小平所長。昨年からは所長に就任した。地元で雇用した若者も多く、気さくにスタッフと交流している姿が印象的だった。



米田研究棟
こちらはラボ施設。植物バイオテクノロジーを活用し、植物の成分を分析したり、クローン技術による植物の増産などを研究している。



清水袋研究棟
栽培した薬草を乾燥させ、一部の植物は葉と茎の分別まで丁寧な作業が行われている。施設内はハーブのような香りが漂う。11種類の植物を生産、加工している。

株式会社アルビオン白神研究所
〒018-3205 秋田県山本郡藤里町粕毛字清水袋 5-9
☎ 0185-71-4181 <https://www.shirakami.albion.co.jp/>

2010年、白神山地の麓・藤里町に株式会社アルビオンの研究所が設立された。高級化粧品のメーカーであるアルビオンが、なぜ白神山地に研究所を設立したのか。

「当社は直営店や契約専門店での販売に特化し、店頭での接客による対面販売にこだわっています。お客様お一人おひとりの肌質感、ご満足度を最も大切にして、商品開発を行っています」と、アルビオン白神研究所所長の小平努さん。

「さまざまな場所を研究所の候補として検討しましたが、藤里を選んだ理由は水です。化粧品で一番使用されている原料は水になりません。藤里の水は軟水で金属イオンが少なく、化粧品の効果に邪魔をしない。非加熱でそのまま飲むことができます。世界自然遺産白神山地というのも魅力的でした。」

白神研究所には3つの施設があり、植物の研究や原料となる植物の栽培を行っている。また、藤里町で古くから行われてきたブドウ栽培を継続させるため、ワイナリーも造成。ブドウの種や茎、葉は化

粧品の原料として活用し、果肉はワインに加工をしている。「当社は持続可能であることを大切にしています。藤里町の特産品に『白神山地ワイン』という商品があったのですが、ワインはその地で醸造していなければ地名を入れることができなくなり商品が作れなくなっただけです。そこで私たちはブドウ畑を取得し、そのブドウを使ったワイン醸造を始めました。もちろん、化粧品の原料としてブドウを検討できるのが一番の理由ですが、地元の方のお役に立

てよかったです。」

高圧・特別高圧向けの「あきた E ね！ オプション水力 100%」を導入したのも、持続可能であることを大切にしていることが理由だ。「白神山地で研究を続ける上で、環境に配慮することは重要なことだと思っています。再エネである水力発電由来の電気を使うことは白神研究所にとってもプラスになる。クリーンなエネルギーでこれからも、ときめく商品の開発を続けていきたいと思っています。」

企業も
水力 100%
を活用！



BLUE POWER MADE IN AKITA

【水のチカラ BOOK 01】

制作・著作



2023年8月発行

【水のチカラ】
特設サイトはこちら

